

インドネシア特集 昭和興産インドネシア、潤滑油や医療を新たな柱に

2026年10月7日

インドネシア特集（2026年）



堤功二社長

昭和興産のインドネシア法人、昭和興産インドネシア（堤功二社長）が事業領域を着実に広げている。主力の化学品ビジネスを基盤に、潤滑油関連やリサイクル原料、医療分野など新たな商材の育成が進展。2026年12月期は利益面で大きく成長する見通しだ。現中期経営計画の目標も達成する見込みで、次期中計に向けて医療分野の深耕やインドネシア発の商材開拓など、次の成長に向けた取り組みを加速する。

新規ビジネスで新たな柱に育っているのが潤滑油関連だ。国営石油会社プルタミナをはじめ、現地の潤滑油メーカー向けに関連添加剤を展開しており、今年は複数商材で商談が進展。来年以降の販売拡大が期待される。既存顧客での実績を生かして横展開を進めるほか、インドから調達する価格競争力のある商材でも採用実績が広がっている。

加えて、樹脂分野ではリサイクル原料の販売が伸長している。従来は有効活用されていなかった樹脂原料を回収し、別用途の原料として再利用するアップサイクル型の取り組みを進めている。価格競争力を確保しながら資源の有効活用にもつながる商材として、現地需要を取り込んでいる。

医療分野でも塩化ビニル（PVC）やエラストマー、医療用途向けインクなどで採用が徐々に増えている。医療機器の国産化を進める現地企業に樹脂コンパウンドや包装材料など複数商材を提案し、他メーカーへの横展開も狙う。

主力の化学品分野では、中国品や現地品との競争が激しさを増すなか、価格競争力のある商材の提案を強化。日系企業を含む既存顧客への深耕を進め、事業基盤の維持・拡大につなげている。

次期中計に向けては、輸入販売が中心となっている事業構造の転換を課題と位置づけ、インドネシア発の輸出商材を探索。コーヒーをはじめとするアグリ分野に加え、ドローンやデータセンター関連など新たな成長テーマを模索していく。